

やつぱ文学賞！

優れた作家や作品を称えたり、時には新人作家への登竜門となる文学賞。メディアで話題になることもありますが、どんな基準で選ばれているの？と首をかしげることもあります。

今号では数ある文学賞の中から、人気のある賞をいくつかご紹介します。お気に入りの文学賞がみつかれば、また新たな読書への扉が開けるかもしません。

芥川賞

芥川龍之介氏を記念して昭和10年に制定。各新聞・雑誌に発表された、新人による純文学短編作品にあたえられる賞です。

直木賞

直木三十五氏を記念して昭和10年に制定。選定期間に出版されたエンターテイメント小説が対象の賞です。

芥川賞・直木賞は菊池寛氏により設立されました。年に2回選ばれ、メディアでも大きく取り上げられる日本の文学賞の双璧です。第148回の芥川賞は『abさんご』黒田夏子(著)、直木賞は『何者』朝井リョウ(著)、『等伯』安部龍太郎(著)。黒田氏は史上最年長、朝井氏は平成生まれで初の受賞となり話題になりました。

このミステリーがすごい！大賞

過去の大賞受賞作『チーム・バチスタの栄光』海堂尊(著)、『さよならドビュッシー』中山七里(著)など、人気作品は映像化もされているミステリーの新人賞です。また受賞は逃したものとの、編集部からの強い後押しで出版される“隠し玉”にも注目です。第10回の隠し玉『珈琲店ターランの事件簿』岡崎琢磨(著)は、図書館でも人気です。

「江戸川乱歩賞」も推理作家を目指す方、ミステリーが大好きな方は注目です！

本屋大賞

“売り場からベストセラーをつくる！”の意気込みで、出版不況の中でも現場から盛り上げていこうと始まった賞です。本屋さんへ行くと、本への思いの丈を込めた沢山の熱いポップに出会いますが、そんな日々、本に触れる書店員さん達はノミネート11作品をすべて読んでから投票しています。大賞に輝いたのは『海賊とよばれた男（上・下）』百田尚樹（著）でした！

エドガー賞

史上初の推理小説といわれる『モルグ街の殺人』を執筆したエドガー・アラン・ポー氏にちなんだ賞です。児童文学への貢献者にあたえられる国際的な賞で、小さなノーベル賞といわれることも。受賞者は隔年で選ばれ、これまで日本からは作家賞にまどみちお氏、画家賞に赤羽末吉氏、安野光雄氏が選ばれています。

国際アンデルセン賞

デンマークの有名な童話作家、ハンス・クリスチヤン・アンデルセン氏にちなんで賞です。児童文学への貢献者にあたえられる国際的な賞で、小さなノーベル賞といわれることも。受賞者は隔年で選ばれ、これまで日本からは作家賞にまどみちお氏、画家賞に赤羽末吉氏、安野光雄氏が選ばれています。

2012年のノーベル文学賞は中国の莫言氏でした！

ノーベル文学賞

6部門からなる世界的有名なノーベル賞。2012年は山中伸弥氏の医学・生理学賞受賞の快挙にわきました。文学賞では過去に、優れた文学作品をうみだす作家として川端康成氏と大江健三郎氏が受賞しています。

他にも文学賞あれこれ

●「女による女のためにR-18文学賞」だなんて！ドキッとするタイトルですが、実力派の女性作家を多く輩出しています。読者賞もあり、読者も選考に参加することができます。もちろん男子禁制！応募者も、選考委員も、参加する読者も、女性限定の文学賞です。

●作家や著者のためのエージェント活動をする日本初の会社、ボイルドエッグスによる「ボイルドエッグス新人賞」。応募作には代表取締役自らが全て目を通すそうです。人気作家の万城目学氏もこの賞から『鳴川ホルモー』でデビューしました。

●著名な選考委員ではなく、講談社の編集者が直接原稿を吟味する「メフィスト賞」。新人賞受賞ではなく原稿の持込みからデビュー、そしてベストセラー作家に上りつめた京極夏彦氏の存在がこの賞の設立のきっかけだと。異才を放つ作家を発掘する“日本で一番尖った賞です。”ちなみに第1回の受賞は『すべてがFになる』森博嗣（著）でした。

●文芸誌主催の新人賞も沢山あります。文藝春秋『文學界』の文學界新人賞、河出書房新社『文藝』の文藝賞、講談社『群像』の群像新人文学賞。これらの雑誌は全て精華町立図書館で所蔵しています。自分だけの、注目の新人を応援するのも楽しいかもしません！

●「野間児童文芸賞」「児童文芸新人賞」「椋嶋十児童文学賞」など、児童書の分野にも文学賞はたくさんありますよ。

◆◆◆◆◆海外の文学賞もちょこっと紹介！

ノーベル文学賞

6部門からなる世界的有名なノーベル賞。2012年は山中伸弥氏の医学・生理学賞受賞の快挙にわきました。文学賞では過去に、優れた文学作品をうみだす作家として川端康成氏と大江健三郎氏が受賞しています。

国際アンデルセン賞

デンマークの有名な童話作家、ハンス・クリスチヤン・アンデルセン氏にちなんで賞です。児童文学への貢献者にあたえられる国際的な賞で、小さなノーベル賞といわれることも。受賞者は隔年で選ばれ、これまで日本からは作家賞にまどみちお氏、画家賞に赤羽末吉氏、安野光雄氏が選ばれています。

エドガー賞

史上初の推理小説といわれる『モルグ街の殺人』を執筆したエドガー・アラン・ポー氏にちなんだ賞です。前年にアメリカで発表されたミステリーが選考対象で、アメリカ以外の作品は翻訳された年が選考の対象となります。2004年には『OUT』桐野夏生（著）が、2012年には『容疑者Xの獻身』東野圭吾（著）がノミネートされ、惜しくも受賞は逃しましたが、日本発のミステリーは海外でも注目されています。